

2025年度 文学部聴講生

講義要項

(西洋史学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2025.4 - 2026.3

目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	教室番号	単位数	ページ番号
E2301	西洋史学	西洋史概説A	杉崎 泰一郎	前期	水	1時限	3551	2	1
E2302	西洋史学	西洋史概説B	佐々木 真	後期	水	1時限	3454	2	3
E2303	西洋史学	西洋古代史／西洋古代史A	松原 俊文	前期	水	3時限	3552	2	5
E2304	西洋史学	西洋中世史／西洋中世史A	三浦 麻美	前期	木	3時限	3552	2	8
E2305	西洋史学	西洋近世史／西洋近世史A	野々瀬 浩司	前期	金	3時限	3114	2	10
E2306	西洋史学	西洋近代史／西洋各国史(4)A	長峰 樂	前期	火	2時限	3252	2	13
E2307	西洋史学	西洋現代史／西洋近現代史A	堀内 隆行	前期	火	1時限	3104	2	15
E2308	西洋史学	西欧史／西洋近世史B	佐々木 真	後期	水	2時限	3454	2	17
E2309	西洋史学	中欧史／西洋各国史(5)	舟橋 倫子	後期	水	2時限	3552	2	20
E2310	西洋史学	南欧史／西洋各国史(3)B	黒田 祐我	後期	火	5時限	3156	2	23
E2311	西洋史学	東欧・北欧史／西洋各国史(2)B	飯尾 唯紀	後期	木	1時限	3206	2	26
E2312	西洋史学	南北アメリカ史／西洋近現代史B	戸田山 祐	後期	水	2時限	3255	2	29
E2313	西洋史学	西洋テーマ史(1)／西洋各国史(3)A	白川 耕一	前期	金	2時限	3454	2	32
E2314	西洋史学	西洋テーマ史(2)／西洋各国史(2)A	鈴木 直志	前期	水	2時限	3454	2	35
E2315	西洋史学	西洋テーマ史(3)／西洋各国史(4)B	広岡 直子	後期	火	5時限	3453	2	37
E2316	西洋史学	西洋テーマ史(4)／西洋古代史B	唐橋 文	後期	月	5時限	3354	2	39
E2317	西洋史学	西洋テーマ史(5)／西洋各国史(1)B	杉崎 泰一郎	後期	火	4時限	3455	2	41

科目名: 西洋史概説A

担当教員: 杉崎 泰一郎

履修年度: 2025 学期: 前期

開講曜日時限: 水1

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-HT1-H101

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:33:53 更新者: AA0015

更新日時: 2025-01-10 08:02:19

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

古代ギリシア・ローマから、長い移行期を経て中世に至る社会や文化の歴史を、広い視点と新しい学説に立って、文字と図像の史料を紹介しながら考察する。

科目目的

古代から中世にかけての西洋の歴史について、新しい視点を踏まえて理解を進める

到達目標

西洋史についての知識を得るとともに、考察する方法を学ぶ

授業計画と内容

1. ガイダンス
- 2 古代ギリシアのポリス:アテナイ(アテネ)を中心に
- 3 共和政ローマ
- 4 カエサルと帝政に向かうローマ
- 5 帝政ローマ
- 6 帝政ローマ期の社会
- 7 古代中世移行期
- 8 中世の教会:教皇、司教、司祭など聖職者
- 9 中世の世俗権力者:王、諸侯、戦士
- 10 中世の農村
- 11 中世の都市と商業
- 12 ルネサンスの開花
- 13 中世から近世への移行期
- 14 まとめと総括

※大きな講義の流れは変わりませんが、各回のテーマは変更することもありますので、あらかじめご了承ください

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 授業内容を十分に理解していること
レポート	0%
平常点	20% 毎回講義後に提出するコメントを出席とし、平常点とする。出席が3分の2に満たない場合はE判定とする。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

受講者に随時質疑応答をする

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストはなし。レジュメを配布する。参考文献は授業のなかで適宜、紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 西洋史概説B**担当教員： 佐々木 真**

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：水1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-HT1-H102

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:33:53 更新者：AB3759

更新日時：2025-01-10 11:22:41

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

19世紀以降のヨーロッパ近代に成立したさまざまな思想や制度は、依然として今日の我々の社会の多くの部分を規定している。本講義では、国民国家や自由主義、資本主義など、ヨーロッパ近代に誕生した思想や制度についてトピック的に解説することを通じて、これらの思想や諸制度がどのような意味を持っているのか、また、それらが現代社会にどのような影響を与えているのかを解説する。

科目目的

この講義で学習する内容の多くは、高等学校の世界史や政治経済で触れたことのある内容である。だが、受講生は個々の事象についての知識を持っていても、それぞれがどのように関連しているのかを理解しているとはいえない。本講義では、西洋近現代史において重要な概念について解説することにより、この時代の特色を俯瞰できるようにし、その後の研究の基礎となる力を身につけることを目的とする。

到達目標

授業を通じて、西欧近代の特徴やその特徴と現代との関係を理解すること、また、それにより、今日の社会の仕組みや理念をよりよく理解し、現代を生きる力を養うことが最終的な目標である。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス・導入
- 第2回 前提としての前近代の国家と社会
- 第3回 近代の政治 (1) 国民国家の形成
- 第4回 近代の政治 (2) ナショナリズム
- 第5回 近代の政治 (3) 国民国家の形成: 国民の定義
- 第6回 近代の政治 (4) 国民国家の形成: 国民の形成
- 第7回 近代の政治 (5) 近代における軍事
- 第8回 近代の経済 (1) 資本主義と経済的自由主義
- 第9回 近代の経済 (2) 自由と平等をめぐる
- 第10回 近代の経済 (3) 社会主義
- 第11回 近代の思想 (1) 棲み分け・隔離・管理の思想
- 第12回 近代の思想 (2) 近代的家族とフェミニズム
- 第13回 近代の思想 (3) 子供と学校
- 第14回 総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業内容の理解度を判定するために、講義終了後に毎回小テストを実施する。小テストの受験にあたっては、授業の内容をよく復習すること。また、状況によっては、事前課題を出す場合もある。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	毎授業後の小テストの成績
期末試験	70%	期末に筆記試験を実施する。
レポート	0%	
平常点	0%	

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

小テストについて、毎回授業とは別に解説動画を配信する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を進める。西洋近現代史の概説書を読んでから授業に出席することで、講義内容に対する理解を深めることができる。初回授業で概説書の一覧を配布する。また、各講義ではそれぞれのトピックに関わるより専門的な著作・論文を紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：西洋古代史／西洋古代史A

担当教員：松原 俊文

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：水3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H301

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:02 更新者：AB4886

更新日時：2025-01-08 21:47:44

履修条件・関連科目等

高校「世界史B」(2022年度以降「世界史探求」)程度の古代ローマ史の知識を前提として講義を進めるので、開講前に高校教科書の該当箇所を読み直し、古代ローマ史の大まかな流れや出来事を掴んでおくことが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ローマ帝国は古代世界における西半球最大の国家であり、西ヨーロッパから中近東、黒海沿岸から北アフリカにまたがる広大な地域を版図に含んでいた。ローマの影響下にあった地域では、その物質文化のみならず、制度やシンボリズムといった精神文化も現在に至るまで様々に受容されている。ゆえに当該地域を学ぼうとする者にとって、「ローマ」は一度は通らねばならない道であろう。本講義では、共和政期、共和政から帝政への過渡期、帝政期それぞれから、初学者にも比較的なじみのあるローマ史上のテーマを取り上げ、その問題点を検証する。

科目目的

古代ローマ史に関する重要なテーマを、教科書や参考書から一步踏み込んで考える能力を習得することを目的とする。

到達目標

本授業は、以下を到達目標とする。

- ・古代ローマ史を例に、「歴史はどのようにして作られるのか」を理解できるようになること。
- ・同時代の証言や史料に含まれている問題を認識できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 古代ローマ史の概要と問題点 1:ローマ史の時代区分(講義ガイダンス含む)
- 第2回 古代ローマ史の概要と問題点 2:ローマ史概略
- 第3回 古代ローマ史の概要と問題点 3:後代に生まれた「ローマの歴史」
- 第4回 「共和政ローマ史」の誕生 1:「共和政ローマ史」の情報源
- 第5回 「共和政ローマ史」の誕生 2:共和政ローマの文化的記憶
- 第6回 「共和政ローマ史」の誕生 3:家伝と共和政ローマ史
- 第7回 「共和政ローマ史」の誕生 4:膨張し続ける過去
- 第8回 アウグストゥスの元首政像 1:元首政とは何か
- 第9回 アウグストゥスの元首政像 2:共和政の復活?
- 第10回 アウグストゥスの元首政像 3:元首政の成立?
- 第11回 ローマの平和とは何か 1:共和政期の戦争と平和
- 第12回 ローマの平和とは何か 2:「平和」か「支配」か
- 第13回 ローマの平和とは何か 3:人類がもっとも幸福で繁栄した時代?
- 第14回 総括・まとめ
(授業の進み具合によって、スケジュールの調整やテーマの増減を行う場合がある)

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後は配信された資料を再読し、その内容についてどのような講義を行ったか復習すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 最終授業日に教場試験を実施する。講義内容を踏まえた解答であるかどうかを評価する。
レポート	0%
平常点	40% 教場授業への参加度で算定する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

manabaの掲示板や個別指導(コレクション)で質問や提言等があった場合は、個別にフィードバックを行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義のテーマごとに資料を配信する。

その他に人名や地名に関する一般的な参考文献として:

- ・バウダー編『古代ローマ人名事典』『古代ギリシア人名事典』原書房、1994年
- ・タルバート編『ギリシア・ローマ歴史地図』原書房、1996年
- ・松原國師『西洋古典学事典』京都大学学術出版会、2010年
- ・Hornblower, S., Spawforth, A. (eds.), Oxford Classical Dictionary (4th ed.), Oxford, 2012.
- ・Cancik, H., Schneider, H. (eds.), Salazar, C. F. (Eng. ed.), Brill's New Pauly, Leiden, 2002-2010.
- ・Gagarin, M. (ed.), The Oxford Encyclopedia of Ancient Greece and Rome, Oxford, 2010.

オフィスアワー

その他特記事項

- ・資料として原典の邦訳テキストや図版は配信するが、講義を聴いてノートを取ることが必須である。
- ・manabaからのメールの受信設定をして、コースニュースや個別指導(コレクション)による教員からの連絡をすぐに確認できるようにする

と。

参考URL

備考

科目名：西洋中世史／西洋中世史A

担当教員：三浦 麻美

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：木3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H302

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:02 更新者：AC8572

更新日時：2025-01-11 17:39:34

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この授業は中世ヨーロッパにおける文書社会に注目する。この時代には論証形式や簿記といった新たな形式が形成されただけでなく、書物の形態や情報整理法など、現代に通じる文書文化が発展した。そこで授業内ではキリスト教に関連するテキストに重点を置きつつ、具体的な史料例として年代記や文学作品、証書、裁判記録などさまざまな種類の文書を取り上げ、その記述内容に加え、背景にある社会文化についても考察する。作成者はなぜ特定の形式を採用したのか、それによって何を伝えようとしていたのか、読者は実際には何を読み取ったのか、一つの文書の読み方は時代によって変わるのか。これらの点を問うことで、文書というメディアの機能が社会とともに発展したことを理解し、現代社会における文書の役割を批判的に検証する。

科目目的

文書をメディアの一環として理解し、文化や社会を読み解く力を創造的に用いて人間の営みについて考察できる。

到達目標

- ・多様な文書形態についてその成立と機能を教養の一環として理解し、適切な判断に基づいて文書形式や様式を使い分ける知識を身につける。
- ・専門知識を土台に思想的展開とその現実社会への影響を論理的に記述することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 正統性と正当性の保証
- 第3回 修道院と証書
- 第4回 真贋とオリジナリティをめぐる問題
- 第5回 托鉢修道会と司牧文書
- 第6回 列聖審問制度と奇蹟録
- 第7回 聖人伝が描く政治と宗教
- 第8回 医学の発展と医学書
- 第9回 経済活動と文書
- 第10回 異端と異端審問
- 第11回 「限界リテラシー」とは何か
- 第12回 聖書の変遷
- 第13回 文書館とネットワーク
- 第14回 まとめと総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で扱ったテキストや紹介した文献、視聴覚的素材について復習し、授業内容への理解を深めることが望ましい。

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験 0%

期末試験	60%	期末に試験を実施し、授業内容への理解を踏まえた解答ができているかを評価する。
レポート	0%	
平常点	40%	毎回のリアクションペーパーをもとに、授業への参加態度並びに内容理解を評価する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。
参考文献は授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

講義内容は受講生に合わせて変更する場合がある。

参考URL

備考

科目名：西洋近世史／西洋近世史A

担当教員：野々瀬 浩司

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：金3

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H303

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:03 更新者：AD1164

更新日時：2024-11-30 11:02:18

履修条件・関連科目等

並行して履修することが望ましい関連科目・関連分野としては、西洋史に関する内容のすべての科目が挙げられます。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では16世紀を中心にヨーロッパ全体の歴史を概観します。講義内容としては、中世キリスト教社会が動揺し、各地に主権国家が成立する以前の時代の歴史について、政治・社会・経済・宗教・思想・文化などの様々な視点から考察することを主眼としたいと思います。具体的にはルネサンス・宗教改革・対抗宗教改革・宗教戦争などについて講義します。基本的には幅広い地域を対象とするが、とりわけヨーロッパを中心に言及したいと考えます。現在のところ、以下のようなテーマで授業を進めていく予定ですが、場合によっては若干変更することや一部の内容を割愛する場合があります。

I 近世ヨーロッパ社会の特質

II ルネサンス

- ① イタリア・ルネサンス
- ② 北方ルネサンス

III 宗教改革と近代社会

- ① ドイツの宗教改革とルター派の拡大
- ② スイスの宗教改革(ツヴィングリのチューリヒ、再洗礼派の形成、カルヴァンのジュネーヴ)
- ③ イングランドの宗教改革(ヘンリ8世、エドワード6世など)
- ④ 対抗宗教改革(トリエント公会議、イエズス会など)

IV 宗派対立と宗教戦争

- ① シュマルカルデン戦争とアウクスブルクの宗教和議
- ② ユグノー戦争とナントの王令
- ③ 三十年戦争とウェストファリア条約

科目目的

近世ヨーロッパの歴史、特に16世紀の西洋史を学ぶことを通して、中世社会と近世社会との間の連続面についての理解を深めると同時に、その断絶面や中世から変化した側面を把握し、さらには近現代社会が形成された基盤を理解する。このことは、今日のヨーロッパ社会が抱えている諸問題、例えばスコットランドやカタルーニャの独立問題、宗派対立・宗教対立、様々な戦争観、個人と共同体の関係などの背景や起源をより深く理解することにつながる。以上のような内容を学ぶことが、本科目の目的である。

到達目標

上記の目的の達成のために、具体的には以下の目標を設定する。

- (1) ルネサンスと人文主義の意義と役割を学び、近代的な個人の成立過程を理解することができる。
- (2) 宗教改革の具体的経過とその思想的本質を学習することを通して、各宗派の思想的な相違や宗派対立の本質を把握することができる。
- (3) 宗派対立や宗教戦争の具体経過とキリスト教の戦争観を理解することによって、それから生まれた寛容思想の内実とその変遷への理解を深めることができる。

授業計画と内容

第1回 ガイダンス・導入：近世ヨーロッパ社会の特質

(1) ルネサンス

- 第2回 ①：イタリア・ルネサンス I
第3回 ②：イタリア・ルネサンス II
第4回 ③：北方ルネサンス

(2) 宗教改革と近代社会

- 第5回 ①：ドイツの宗教改革とルター派の拡大 I (神聖ローマ国内の宗教改革など)
第6回 ②：ドイツの宗教改革とルター派の拡大 II (北欧の宗教改革など)
第7回 ③：スイスの宗教改革(ツヴィングリのチューリヒ) I

- 第8回 ④: スイスの宗教改革(カルヴァンのジュネーヴ) II
 第9回 ⑤: イングランドの宗教改革(ヘンリ8世、エドワード6世など)
 第10回 ⑥: 対抗宗教改革(トリエント公会議、イエズス会など)

(3) 宗派对立と宗教戦争

- 第11回 ①: シュマルカルデン戦争とアウクスブルクの宗教和議
 第12回 ②: ユグノー戦争とナントの王令
 第13回 ③: 三十年戦争とウェストファリア条約 I
 第14回 ④: 三十年戦争とウェストファリア条約 II 総括とまとめ

授業の進展状況によっては若干変更することもあります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業中に提示した参考文献の中から興味を持った書籍を選んで講読し、講義内容の理解を深めてください。随時多くの参考文献を提示します。図書館を積極的に利用してください。講義後に配布した資料を見直してください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	実施しません。
期末試験	85%	講義内容に関連した範囲内で、学期末に対面で試験を行う予定です。
レポート	0%	実施しません。
平常点	10%	出席は毎回とります。
その他	5%	毎回ではないが、何回かリアクションペーパーを提出してもらい場合もあります。また、ビデオを見て簡単な感想を書いてもらうこともあります。

成績評価の方法・基準(備考)

試験の内容や形式については、授業中にアナウンスします。

課題や試験のフィードバック方法

- 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

場合によっては、授業のなかでリアクションペーパーを書くための課題や見解を提出してもらいます。

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

場合によっては、授業のなかでリアクションペーパーを書いてもらいます。

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書(テキスト)は使用しません。毎回レジュメを配布します。参考図書としては、以下のものを推奨します。

参考書

- ①エルンスト・トレルチ著『ルネサンスと宗教改革』岩波文庫、1959年。
 - ②ピーター・パーク著『イタリア・ルネサンスの文化と社会』岩波書店、2000年。
 - ③野々瀬浩司著『ドイツ農民戦争と宗教改革』慶應義塾大学出版会、2000年。
 - ④ピーター・ブリックレ著『ドイツの宗教改革』教文館、1991年。
 - ⑤C.V.ウェッジウッド著『ドイツ三十年戦争』刀水書房、2003年。
 - ⑥ウルリヒ・イム・ホーフ著『スイスの歴史』刀水書房、1997年。
 - ⑦バルント・メラ著『帝国都市と宗教改革』教文館、1990年。
 - ⑧マックス・ヴェーバー著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、1989年。
 - ⑨P.H.ウィルソン著『神聖ローマ帝国：1495-1806』岩波書店、2005年。
 - ⑩J.ホイジンガ著『エラスムス』ちくま学芸文庫、2001年。
 - ⑪野々瀬浩司著『宗教改革と農奴制』慶應義塾大学出版会、2013年。
 - ⑫中野隆生・中嶋毅共編『文献解説 西洋近現代史 I : 近世ヨーロッパの拡大』南窓社、2012年。
 - ⑬R.W.スクリプナー、C.スコット・ディクソン共著『ドイツ宗教改革』岩波書店、2009年。
 - ⑭A.E.マクグラス著『宗教改革の思想』教文館、2000年。
- その他随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

近世ヨーロッパ史、特に16世紀の歴史に興味のある学生を歓迎します。できることならば、高校の世界史を十分に履修した学生が望ましいです。日本史で受験した学生は、世界史の教科書を事前に読んできてください。また、理解の補助のために、短いビデオなどの視覚教材を使用することもあります。

参考URL

備考

科目名：西洋近代史／西洋各国史(4)A

担当教員：長峰 樂

履修年度：2025 学期：前期

開講曜日時限：火2

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H304

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:03 更新者：XEC509

更新日時：2025-01-10 15:25:26

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義は、17世紀後半から19世紀前半までを覆う「長い18世紀」と呼ばれる時代のイギリス史について、「都市化」という観点から考察する。世界史という観点から見た場合、同時期のイギリス史は、植民地の拡大や産業革命のような、近代化に大きな影響を与えたとされる出来事によって特徴づけられるが、それらの出来事と都市とのつながりや、都市の役割については、その重要性に反して詳しく議論されない。都市生活の変化や都市文化の成熟は、植民地貿易の拡大だけではなく、議会政治の近代化とも密接に関連していたのである。両者の関連性を検討するにあたり、本講義は、産業革命の進行に伴い変化していく統治上の課題に対する都市行政の対応に焦点を当て、その過程で、権力と社会の関係性や、「近代」と呼ばれる時代の特徴を考えていく。

科目目的

近世・近代イギリスの政治・経済・社会・文化・国際関係と都市の関係について、基礎的な論点を理解することが目的である。

到達目標

都市や社会という観点からイギリスが近代化していく歴史的過程を知ることができる
産業革命や帝国主義などの世界史的に重要な出来事と都市の関係を説明することができる。

授業計画と内容

- 授業の予定
- 1. ガイダンス
- 2. 議論の前提①：世界史のなかのイギリス史
- 3. 議論の前提②：名誉革命と議会
- 4. 議論の前提③：選挙区としての都市
- 5. 議論の前提④：都市経済の成長と「都市ルネサンス」論
- 6. 議論の前提⑤：プライヴェイト・アクトとは？：地方の行政団体とその担い手
- 7. まとめ：これまでの概説や基礎知識の確認
- 8. 地域の事例①：ノッティンガムシャーにおける都市改良
- 9. 地域の事例②：キングス・リンにおけるインフラ整備
- 10. 地域の事例③：エクセターにおける貧民救済
- 11. 地域の事例④：ポートシーにおける公衆衛生改善
- 12. 史料を読む①：チェスターにおける都市改良計画の開始
- 13. 史料を読む②：チェスターにおける都市改良計画の促進
- 14. まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 100% 授業内容に関する論述問題への回答の水準により評価する。(参照物の持ち込みは可能)

レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業の最後に受講生からの質問やコメントを受け付け、翌週の授業の冒頭でそれらに対応する。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

配布資料を中心に講義を進める。
講義に関わる参考文献等は、毎回の授業内、または、manabaで紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 西洋現代史／西洋近現代史A

担当教員： 堀内 隆行

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 火1

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H305

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:04 更新者： AA2342

更新日時： 2024-11-18 10:17:57

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリーを、担当者の専門である南アフリカの事例に即して論じる。まずこのテーマを、世界システム論からグローバル・ヒストリーへという研究史のなかに位置づける。次いで政治学者ベネディクト・アンダーソンのナショナリズムの4類型を振り返り、南アフリカが、これら4類型すべての展開してきた特異な国であることを確認する。さらに歴史家キース・ブレッケンリッジの生体認証国家の議論などに学びながら、指紋の管理にもとづく統治モデルが南アフリカから世界へ伝播したことを跡づけたい。

科目目的

この科目は、学生がナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリーに関する基礎的知識を修得し、歴史研究における理論と実践との関係について理解を深め、また現代世界を見る目を養うこと、さらに学位授与の方針で示す「幅広い教養」と「複眼的思考」を習得することを目的とします。

到達目標

この科目では、学生がナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリー、あるいは歴史研究における理論と実践との関係について他者に説明できるようになることを到達目標とします。

授業計画と内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界システム論
- 第3回 グローバル・ヒストリー(テキストにもとづくグループワーク)
- 第4回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ1:クレオール・ナショナリズム1(テキストにもとづくグループワーク)
- 第5回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ2:クレオール・ナショナリズム2
- 第6回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ3:言語ナショナリズム
- 第7回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ4:公定ナショナリズム
- 第8回 ナショナリズムの4類型と南アフリカ5:植民地ナショナリズム
- 第9回 生体認証国家1:植民地インドにおける指紋(テキストにもとづくグループワーク)
- 第10回 生体認証国家2:帝国主義
- 第11回 生体認証国家3:南アフリカにおけるガンディー(テキストにもとづくグループワーク)
- 第12回 生体認証国家4:広がりと限界
- 第13回 生体認証国家5:アパルトヘイト
- 第14回 総括・まとめ:ナショナリズムと国家モデルのグローバル・ヒストリー再考

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配られる関連資料に目を通して理解を深める。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 授業内容に関する論述問題への回答の水準により評価する。
- レポート 0%
- 平常点 50% 毎回の授業で提出する小レポートの水準により評価する。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 参考文献
・堀内隆行『異郷のイギリス—南アフリカのブリティッシュ・アイデンティティ』(丸善出版、2018年)。
・同『ネルソン・マンデラ—分断を超える現実主義者(リアリスト)』(岩波新書、2021年)。
・キース・ブレッケンリッジ(堀内隆行訳)『生体認証国家—グローバルな監視政治と南アフリカの近現代』(岩波書店、2017年)。

オフィスアワー

その他特記事項

提出された小レポートのいくつかに対しては、次の授業の初めに担当者から返答やコメントをする。また、グループワークの内容について授業中に担当者から学生へ質問も行う。それゆえ、講義形式ではあるものの、学生との対話を盛り込んだ、一定程度双方向的な授業になる。

参考URL

備考

科目名： 西欧史／西洋近世史B

担当教員： 佐々木 真

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H306

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:04 更新者： AB3759

更新日時： 2025-01-11 10:48:04

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

戦闘からみた歴史

20世紀後半から歴史学の分野でも軍事についての研究が進み、それまで軍部が行っていた戦史研究とは一線を画する「新しい軍事史」、「広義の軍事史」が研究されてきた。そこでの軍事研究は、社会の構造を明らかにしようとする社会史の一環として行われ、戦争よりも軍隊、とりわけ平時の軍隊への関心が強かった。

しかし、軍隊は戦争を遂行する組織であるし、その行為として戦闘は歴史学として無視することはできない。実際、最近では欧米で歴史学の側から「新しい戦闘の歴史」が行われている。その意義としては、従来の戦史研究の中心となっていた戦闘指揮といった抽象的な問題の検討にとどまらず、戦闘を総合的に理解しようとするところがある。

そこで、本講義では戦闘の歴史研究から何が見えてくるのかを考えてみたい。具体的には、まず歴史学の分野での最近の戦闘の研究を紹介し、その後にスペイン継承戦争(1702-13)を対象として、戦争や戦闘のありかたから、何が見えてくるのかを考える。

科目目的

ヨーロッパ近世の戦争や戦闘のありかたとともに、戦争や戦闘がどのように行われたのかを理解する。それとともに、歴史学において、戦闘を扱うことの意味を考えることが目的である。

到達目標

従来までの「新しい軍事史」は軍隊の構造の解明が主流であった。これに対し、戦闘は事件であり、最終的には歴史において構造と事件がいかに関係しているのかを考えてほしい。

授業計画と内容

- 第1回 はじめに
- 第2回 戦闘の歴史研究①:軍部による戦闘史
- 第3回 戦闘の歴史研究②:新しい戦史:アングロ・サクソンの研究
- 第4回 戦闘の歴史研究③:新しい戦史:フランスの研究
- 第5回 近世の戦争:戦争の実態
- 第6回 近世の戦争:戦闘のあり方
- 第7回 スペイン継承戦争概観
- 第8回 マルブラケの戦い①:戦闘の概要
- 第9回 マルブラケの戦い②:戦闘から見えてくるもの
- 第10回 リール攻城戦①:戦闘の概要
- 第11回 リール攻城戦②:戦闘から見えてくるもの
- 第12回 軍事史との比較
- 第13回 戦史研究から何が見えてくるのか
- 第14回 総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業終了後に内容に関するまとめや質問を記入するリアクション・ペーパーを集める。また、状況に応じて、事前に読むテキストを指定する場合もある。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 期末に実施するテストの点数。
レポート	0%
平常点	20% リアクション・ペーパーの内容で評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

毎回、授業開始時あるいはビデオ配信でリアクションペーパーに対する解説や質問への回答を行う。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、配付資料を中心に授業を行う。参考文献については、授業中にリストを配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 中欧史／西洋各国史(5)

担当教員： 舟橋 倫子

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H307

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:04 更新者： AB5965

更新日時： 2025-01-08 18:18:26

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ヨーロッパの主要な国としてはイギリス、フランス、ドイツなどの名がすぐに挙がる。しかし、英仏が台頭してくるのはようやく17世紀になってからである。それに対して西欧の中央に位置しているネーデルラント(ベルギー・オランダ・ルクセンブルク)は、5世紀にヨーロッパの中心となって以来、先進地域として大きな影響力を行使してきた。中世フランク王国の心臓部であり、十字軍の時代を先導し、英仏百年戦争の要となる繊維産業で空前の繁栄を謳歌し、豊かな北方ルネサンスが花開き、宗教戦争時には多様な人々を共同体のメンバーとして受け入れ、大航海時代にフランドル諸都市が世界経済の要となった。ヨーロッパの十字路に位置していたがゆえに繁栄もしたが、度々他国の侵略を受け、戦場にもなった。現在、国を超えた連帯と政策を実行する国際機関EUとNATOの本部がブリュッセルに置かれていることは、当該地域がヨーロッパの中心として機能していることを端的に示している。

本講義では、ベルギー・オランダに視点を定め、そこから見えてくるヨーロッパ史を多角的に考察する。この地域を理解することにより、複雑なヨーロッパ、さらには世界の問題がみえてくるのである。これらの国々は大国の狭間で翻弄されてきたからこそ、時に戦い、特に妥協と合意の道を探り、人と物の移動に柔軟に対応して寛容で多様性のある独自の社会を形成してきた。この地域の人々は、自らの歴史を振り返るとき、しばしば「勇敢で寛容な」という表現を用いる。彼らは共同体を結成して近隣の大国と対等にわたりあい、都市や地域の自治を誇り、自由を愛し、他者を寛容に受け入れつつも、自由と自治を守るために他国の支配に対して勇敢な獅子のように戦った歴史があるからである。この授業では古代から近現代までのネーデルラントの歴史の分析から、外部に開かれた共同体であり続けることによって経済発展を実現させ、柔軟で多岐的な独自の社会集団を作り上げてゆくダイナミズムを検討する。

科目目的

世界や歴史を考える場合に、私たちは今現在の物差しに捉われて物事をみてしまいがちです。既存の概念や意識への刷り込みから自由に物事を見ることができたら、世界は新しい姿で私たちの目前に姿を現すことでしょう。現在の国家という枠組みからヨーロッパを理解しようとすると、そこからはみ出した部分を見落としてしまいます。そのことによって総合的な歴史の把握が困難な状態を自ら作り出してしまうことになります。このジレンマを抜け出すためには、ヨーロッパ全体の動き常に意識し、「現在」前提とする直線的な物の見方にブレーキをかけることが必要です。

この科目で対象とするネーデルラントは、ヨーロッパの十字路に位置し、合従連衡の要として何世紀にもわたって世界をリードしてきました。この地域に視点を定めた考察を行うことによって、他者との関係性の中で作り上げられてゆくヨーロッパの歴史の本質に迫ることができる考えます。西洋史学専攻科目の選択科目であるこの科目の学習を通じて、学生が新たな視点からヨーロッパ、そして世界を再発見することを目的としています。

到達目標

この科目では、以下を到達目標とします。

- ・ベルギー・オランダという国の成り立ちや文化的な特徴について基本的な知識を習得すること。
- ・それらがヨーロッパや世界において、大きな影響力を持っていた理由を説明できること。
- ・ヨーロッパ社会を構成する地域や個人の人々のアイデンティティがどのようにして形成されてきたのかについて、ネーデルラントの視点から説明し、現代社会に求められる柔軟で多様な共同体モデルを提案できるようになること。

授業計画と内容

- 第1回 現在のベルギー・オランダ：地理的特徴と文化：人々の意識と日常生活：言語問題
- 第2回 古代から中世へ：ローマからフランクへ
- 第3回 フランク王国の中心地としての機能：多様な文化の結節点
- 第4回 封建制の成立と領邦の形成：地域社会の成立
- 第5回 低地地方の都市の発展
- 第6回 都市社会の諸側面：格差の拡大と救貧活動
- 第7回 ネーデルラントの政治的統一への道
- 第8回 百年戦争の時代：フランス・イギリスとの関係
- 第9回 15・16世紀のネーデルラント絵画
- 第10回 ブルゴーニュ家からハプスブルク家へ
- 第11回 ネーデルラント連邦共和国へ：16世紀後半ヨーロッパ国際政治の一大焦点
- 第12回 17世紀オランダ：黄金時代の経済と文化
- 第13回 絶対王政からベルギー独立へ
- 第14回 まとめ：既存の国家制度の向こうへ・未来への展望

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業は対面で行います。やむを得ない理由で出席できない学生は、manaで公開されるレジュメとスライドを活用して自習してください。授業中(最後の5分間を作成時間にあてます)に毎回アクションペーパーを提出して頂きます。感想や質問を書き込んで下さい。次の授業で質問をまとめて回答を提示し、補足の説明を行います。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	最終授業において持ち込み可(自筆ノートと配布資料・レジュメ)の試験を行います。～について説明しなさいという問題を複数出題し、各自が記述する形とします。授業内容を理解し、自分としての考察ができることが評価基準となります。
レポート	0%	
平常点	30%	授業終了後に、毎回提出するリアクションペーパーを平常点とします。授業内容のまとめという受動的なものではなく、授業に対する自身の考えや感想という主体的な内容を書くことが評価基準となります。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

特にテキストを指定しない。毎回レジュメと参考資料を配布する。参考文献についてもその都度紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

質問は直接受けませんが、リアクションペーパーで提出してもかまいません。manabaのお知らせや掲示板を学生との連絡方法として利用します。高校世界史程度の基礎知識があることを前提として授業を行います。試験も持ち込み可ですので、暗記が必要な授業ではありません。経済格差や社会福祉、差別や言語問題、食文化や美術史などの具体例を色々取り上げて授業を進めますので、様々なことに興味を持って授業に臨んでくれることを期待します。

参考URL

備考

科目名：南欧史／西洋各国史(3)B

担当教員：黒田 祐我

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：火5

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H308

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:05 更新者：AD0662

更新日時：2025-01-10 00:27:41

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

地域からみるスペイン史の諸問題

現在のスペインとポルトガルが位置するイベリア半島は、南北ではヨーロッパ大陸とアフリカ大陸との、東西では地中海圏と大西洋圏とが十字に交錯する、まさに異なる文明、異なる宗教や文化がぶつかり合いながら独自の諸文化がはぐくまれる場であり続けた。

- 1) 本講義の前半部分においては、古代から現代にかけて、どのような歴史をたどって現在のスペインという国民国家が成立するにいたったのかを通史的に論じる。
- 2) 後半部分においては、まずイベリア半島の地理的特徴を確認しながら現在のスペインを構成している地域ごとの歴史の展開、地域文化の独自性あるいは特殊性を分析しながら、スペインという「くに」がもつ魅力とその可能性について論じる。

科目目的

我々が所与の政治単位とみなしている「国民国家(英語のNation-State, スペイン語のEstado-Nación)」は、近現代という時代に固有の歴史的発明に過ぎず、この政治単位を自明のものとする、現在のスペインの政治状況や、諸問題を理解することができない。

その特殊な地理的条件によって、「西洋」「東洋」「ヨーロッパ」「アジア」のすべての要素を含みながら歴史を紡いできたイベリア半島の歴史と文化を学ぶことによって、西洋史のみならず世界の歴史のなかで人々が行ってきた多様な営みに関する深い知識を修得することを本講義は目的としている。

到達目標

本講義は、以下を到達目標とする。

1. ヨーロッパ世界のなかでのイベリア半島がたどった歴史の全体像を把握できるようになること。
2. 「スペイン」という国民国家単位に縛られず、同国家内に併存している豊かな文化的多様性について、基礎的な知識を獲得すること。

授業計画と内容

- 第1回 はじめに ～イベリア半島史のダイナミズム
- 第2回 古代の歴史
- 第3回 中世の歴史(1)～カスティーリヤ王国～
- 第4回 中世の歴史(2)～アラゴン連合王国とナバール王国～
- 第5回 中世の歴史(3)～アンダルス(イスラーム・スペイン)～
- 第6回 近世の歴史 ～栄華と没落～
- 第7回 近代の歴史 ～「国民国家」の形成～
- 第8回 現代の歴史 ～統合と分離をめぐって～
- 第9回 「スペイン」の地理的多様性
- 第10回 地域の歴史と文化(1)～地中海沿岸部をめぐる状況
- 第11回 地域の歴史と文化(2)～中央部カスティーリヤをめぐる状況
- 第12回 地域の歴史と文化(3)～北部バスク・ガリシアをめぐる状況
- 第13回 地域の歴史と文化(4)～南部アンダルシア・ムルシアをめぐる状況
- 第14回 総括:「スペイン」の来し方行く末

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

本講義は、以下の自己学修が要求される。

1. 事前にmanabaにアップされるレジュメを各自ダウンロードして、目を通しておく。
2. 講義聴講後、要点を整理して、コメントシートを出す。
3. 各回の講義に加えて、適宜紹介される参考文献を各自で読み込んで、期末レポートの準備を行う。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	70%	レポート評価基準 ①問題設定、扱う具体的事例、結論との間に整合性があるか ②自らの見解を説得的に提示できているか ③参考文献を用いたのであれば、それが的確に明記されているか
平常点	30%	毎回のコメントシートの提出をもって評価する。 評価基準) 各回の内容をきちんと把握して課題に取り組んでいるか。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
 タブレット端末
 その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。

参考文献については、各回の授業で関連するものを適宜紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

本講義は中学・高校で習った世界史に関する基礎的な知識を前提として進められる。よって未履修者は事前に世界史の流れを各自で学習しておくこと。

参考URL

備考

科目名： 東欧・北欧史／西洋各国史(2)B

担当教員： 飯尾 唯紀

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 木1

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H309

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:05 更新者： AD0072

更新日時： 2025-01-14 11:28:47

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

題目「ヨーロッパ東部世界の歴史的展開と宗教 一中・近世を中心に」

この講義では、中世から近世までのヨーロッパ東部をとりあげ、この地域の政治構造と経済発展、文化変容について理解を深めます。特に焦点をあてたいのは、宗教というファクターの影響です。現代においてもヨーロッパ東部では政治と宗教の深い関係が見られますが、前近代には、宗教は私達が想像する以上に政治や経済、文化に影響を与えたと考えられるからです。

対象とする場所は、バルト海と黒海・アドリア海にいたる南北に広がる地域です。この地域の中核には中・近世にかけ、ハンガリー王国、チェコ王国、ポーランド王国が成立・発展していました。特に焦点を当てるのはハンガリー王国ですが、北欧やロシアなど周辺世界との共通点と差異、影響関係についても吟味します。聖職叙任権、宗教改革や魔女裁判、啓蒙思想などヨーロッパ史でおなじみの主題が、ヨーロッパ東部でどのような変奏を繰り広げるかを見ることを通じて、ヨーロッパ史理解を見直す手がかりをえることがこの授業の狙いです。

科目目的

- ・この科目は、カリキュラム上、西洋史学専攻専攻科目群(選択科目)に位置づけられており、この科目の学習を通じて、学生がヨーロッパ東部の歴史的展開と政治・宗教関係の重要性について認識を深めることを目的としています。
- ・この科目は、学生が学位授与の方針で示す「専門的学識」と「複眼的思考」を習得することを目的としています。

到達目標

- (1) ヨーロッパ東部地域の中・近世史について基礎的な知見をえる。
- (2) ヨーロッパの政治・社会・文化の発展に宗教が果たした役割について、新しい研究成果を知る。
- (3) ヨーロッパ東部の歴史的展開を学ぶことにより、西欧中心のヨーロッパ史理解を相対化する視点を深める。

授業計画と内容

- (1) 中・東欧世界の形成
 - 第1回 イントロダクション(ガイダンス、講義の基本視角)
 - 第2回 地理的環境と時代区分
 - 第3回 中世国家と宗教
 - 第4回 守護聖人、防壁意識、正教との接点
- (2) 中世から近世へ
 - 第5回 統合的権力の伸長と宗教—ハプスブルク帝国とオスマン帝国
 - 第6回 狭間の世界—トランシルヴァニア侯国
 - 第7回 宗教改革を準備したもの—境界性、信仰心、聖職者の世界
 - 第8回 中間のまとめ(小テスト含む)
 - 第9回 宗教改革はいかに定着したか—君主、領主、平民の世界
 - 第10回 魔女裁判の世界
- (3) 近世から近代へ
 - 第11回 宗教的寛容の世界(1)16・17世紀
 - 第12回 宗教的寛容の世界(2)18世紀
 - 第13回 19世紀の政治と宗教
 - 第14回 近現代への展望

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	25%	前半の授業内容と提示された参考文献の内容を理解し、正確に問いに答えることができること。
期末試験	0%	
レポート	50%	授業内容を理解した上で、各自の問題関心にひきつけて文献調査を行い、発展的にレポートを作成することができること。
平常点	25%	授業内容を理解したリアクションペーパー (Manaba小テストで実施)を記入すること。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

- ・各回の授業でレジュメや資料を配布する

【参考文献】

- 講義全般、背景理解に関わるもの
- ・南塚信吾(編)『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版社、1999年)
- ・伊東孝之、中井和夫、井内敏夫(編)『ポーランド・ウクライナ・バルト史』(山川出版社、1998年)
- ・『中欧・東欧文化事典』(丸善出版社、2021年)の関連する項目

○個別の主題にかかわる参考文献は、各回の授業中に紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 南北アメリカ史／西洋近現代史B

担当教員： 戸田山 祐

履修年度： 2025 学期： 後期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H310

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:06 更新者： AD0019

更新日時： 2024-12-18 18:46:20

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本授業では、ヒスパニック(Hispanic)あるいはラティーノ(Latino)と称される、ラテンアメリカに出自を持ちアメリカ合衆国内に暮らす人々に焦点を当て、南北アメリカの関係史およびアメリカ合衆国の政治・外交史を考察する。

科目目的

現在のアメリカ合衆国(以下、米国と表記する)では、ヒスパニック(Hispanic)あるいはラティーノ(Latino)と称される、ラテンアメリカに出自を持つ集団が急速に存在感を増している。ヒスパニック／ラティーノは近年の米国への移民の流入と結びつけられて語られることが多い集団であるが、実際には米国の成立から間もない19世紀前半から同国内に住み続けてきた。また、その歴史は米国とラテンアメリカの関係史と密接に結びついている。したがって、米国の歴史を学ぶうえでも、南北アメリカ全体の歴史を考えるためにも、ヒスパニック／ラティーノについて知ることは有益であろう。

本授業では、米国内の「人種」／エスニック集団としてのヒスパニック／ラティーノの形成過程に焦点を当てたうえで、米国とラテンアメリカのあいだに存在してきた人・資本・文化の流れおよび、このような流れのあり方を形作ってきた米州関係(南北アメリカ諸国間の国際関係)の動態について歴史的に考察する。また、本授業では、米国の政治史におけるヒスパニック／ラティーノの位置付けについても論じる。ヒスパニック／ラティーノは、出身国・出身地域も文化的な背景も多様であり、イデオロギーや政党支持の面でも複雑な様相を呈する集団であるが、政治参加を含むさまざまな回路を通じて、ヒスパニック／ラティーノとしての共通のアイデンティティや相互の結びつきが形成されてきた。また、総人口に占める移民の比率が高い集団であり、いわゆる「移民問題」や国境警備をめぐるイシューと結びつけられて言及されることも多い。米国の国内政治の歴史と現状を世界の他国・他地域とのかかわりという視点から考えるためにも、本講義ではヒスパニック／ラティーノに注目したい。

以上の問題関心に即して、本授業は、米国の政治制度・政治史および米州関係史の全体にかかわる要点を時代・テーマごとに説明しつつ、ヒスパニック／ラティーノの動向を各回のテーマに関連付けて論じるという形で実施する。

到達目標

以下がこの授業の目標である。

1. 受講者は、19世紀前半から21世紀初頭までの南北アメリカの歴史について、国家間・地域間の関係に注目して考える視座を得る。
2. 受講者は、19世紀前半から21世紀初頭までのアメリカ合衆国の政治の歴史的展開およびアメリカ合衆国の政治制度についての基礎的な知識を得る。
3. 受講者は、多様な人々が暮らす社会における集団間の関係について、歴史的背景と制度的要因に着目して考える視座を得る。

授業計画と内容

- 第1回 授業のオリエンテーション、ヒスパニック／ラティーノとはどのような人々か
- 第2回 米国の政治制度概観、米州関係史総説
- 第3回 米国の領土拡大と米州関係 - 米墨戦争と米西戦争
- 第4回 南北アメリカへの移民の流入、南北アメリカから米国への移民
- 第5回 大恐慌、ニューディールとメキシコ系アメリカ人の政治運動・労働運動
- 第6回 政党政治と人種／エスニック・マイノリティ - メキシコ系アメリカ人と民主党
- 第7回 移民政策をめぐる内政・外交とヒスパニック／ラティーノ - メキシコ人ゲストワーカーとメキシコ系アメリカ人
- 第8回 「ゆたかな社会」とヒスパニック／ラティーノ - プエルトリコ人の「本土」への移動
- 第9回 キューバ革命と冷戦下の米国の難民政策
- 第10回 ベトナム戦争とヒスパニック／ラティーノ - 「軍事的市民権」と反戦運動
- 第11回 公民権運動・公民権政策とヒスパニック／ラティーノ・アイデンティティの形成
- 第12回 米国の「移民問題」とヒスパニック／ラティーノ
- 第13回 ヒスパニック／ラティーノと近年の米国の政治(1)
- 第14回 ヒスパニック／ラティーノと近年の政治の現在(2)

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で配られた資料はかならず持ち帰り、読み返して復習すること。

授業の各回で扱うテーマに関係する文献を随時紹介する。レポートの執筆にはこれらの文献が必要となるので、興味を持ったテーマにかんする本や論文には目を通しておくこと。

成績評価にかかわるレポートの執筆に必要な専門的な内容の文献を自ら探し出す力を養うために、次のサイトの使い方に慣れておくこと。
<https://ci.nii.ac.jp/>

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験 0%

レポート 80% 期末レポートの体裁や内容を基準に評価する。とりわけ、以下の点を重視する。
・パラグラフ・ライティングができていないか。
・授業内容に加えて、専門的な観点から議論が展開されている文献(学術書や学術論文)も参照したうえでレポートが書かれているかどうか。

平常点 20% ・授業への出席。
・授業内容へのコメント・質問(manabaに提出すること)の程度や内容。

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

✓ ディスカッション、ディベート

✓ グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリックカー

タブレット端末

その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

本授業で使用するテキストは資料等の提示をもって代えることとする。

以下は、授業全体の内容にかかわる参考文献の例である。この他、授業の各回で、個別のテーマにかかわる文献を紹介する。

参考文献

岡山裕『アメリカの政党政治』中公新書、2020年。
久保文明他編著『マイノリティが変えるアメリカ政治 - 多民族社会の現状と将来』NTT出版、2012年。
久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』東京大学出版会、2022年。
貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』岩波新書、2018年。
紀平英作編『アメリカ史』山川出版社、1999年。
高橋均、網野徹哉『世界の歴史18 ラテンアメリカ文明の興亡』中央公論社、1998年。
ナイ、メイ・M(小田悠生訳)『「移民の国アメリカ」の境界 - 歴史のなかのシティズンシップ、人種、ナショナリズム』白水社、2021年。
中野耕太郎『20世紀アメリカの夢 シリーズ アメリカ合衆国史3』岩波新書、2019年。
西崎文子『アメリカ外交史』東京大学出版会、2022年。
西山隆行『移民大国アメリカ』ちくま新書、2016年。
西山隆行『アメリカ政治講義』ちくま新書、2018年。
古矢旬『グローバル時代のアメリカ シリーズ アメリカ合衆国史4』岩波新書、2020年。
増田義郎・山田睦男編『ラテンアメリカ史I メキシコ・中央アメリカ・カリブ海』山川出版社、1999年。
増田義郎編『ラテンアメリカ史II 南アメリカ』山川出版社、2000年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

授業担当者の業績および経歴については以下を参照されたい。
<https://researchmap.jp/2029>

備考

科目名： 西洋テーマ史(1)／西洋各国史(3)A

担当教員： 白川 耕一

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 金2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H311

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:06 更新者： AC7978

更新日時： 2025-01-11 11:53:41

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

題目「ユダヤ人を救え！—第2次世界大戦におけるフランス、ベルギー、オランダにおけるユダヤ人救援の動きと限界」

概要

ホロコーストとは、第2次世界大戦中におけるナチス・ドイツによるユダヤ人殺害を表す言葉です。私は、ユダヤ人迫害と殺害をナチス・ドイツの特有の現象と見ずに、ドイツを震源地としたヨーロッパ全体にかかわる問題として考えています。

本講義では、第2次世界大戦期のフランス、ベルギー、オランダにおけるユダヤ人迫害を扱います。ナチス・ドイツに占領された三国において、確かにユダヤ人迫害がドイツの命令の下で遂行されました。しかし、占領された側の人のなかにもユダヤ人迫害に協力した人がいたこと、犠牲者のユダヤ人の中でも様々な動きがあったことが明らかになっています。本講義では、3国における、占領期のユダヤ人迫害の経過をたどった後、ユダヤ人を救援する動きについて説明します。連合国政府の動き、米国ユダヤ人の団体による救助活動、キリスト教徒による救援や対独抵抗運動グループとの関係、ユダヤ人自身による活動を検討します。迫害と救援活動とを重層的に明らかにしていきたいと考えています。

科目目的

現在、歴史像をめぐる厳しい紛争が各地で発生しています。それは、過去の見え方は決して変化しないものではなく、時代や人々の意識によって変化するからです。授業においては、ナチス・ドイツが一方的に占領地に反ユダヤ主義政策を押し付けたという見方をとりません。フランス、オランダ、ベルギーで採られた政策がどのように違うのか、ユダヤ人や現地の人びとの反応にも注目したいと思います。

到達目標

- (1)ヨーロッパ現代史を学ぶ上で、必要な知識を獲得する。
- (2) ナチス・ドイツにおけるユダヤ人迫害の展開を説明することができる。
- (3) 第2次世界大戦中の取られた反ユダヤ主義政策の違いを説明することができる。
- (4) 迫害を受けるユダヤ人が、ナチ支配から逃れ、自らの命を守るためにどのような行動をとったのかを説明することができる。

授業計画と内容**講義計画**

- 第1回 はじめに
- 第2回 ベルギー、オランダ、フランスにおけるユダヤ人(1930年代末まで)
- 第3回 独逸チェコからのユダヤ人難民と西欧社会
- 第4回 第2次世界大戦の勃発(1939～1940年)とユダヤ人の動き
- 第5回 ナチ占領下の3国の行政機構—ナチ支配への同調—
- 第6回 占領初期(1940～1942年夏)における反ユダヤ主義政策
- 第7回 登録から移送、そして殺害へ—3国におけるユダヤ人殺害政策の展開—
- 第8回 国際社会とユダヤ人迫害・殺害—米国政府の動きを中心に—
- 第9回 米国ユダヤ人団体によるユダヤ人救援活動
- 第10回 ユダヤ人迫害とキリスト教会(1)—フランス—
- 第11回 ユダヤ人迫害とキリスト教徒(2)—ベルギー、オランダ—
- 第12回 対独抵抗グループとユダヤ人
- 第13回 「逃げる、隠れる」—ユダヤ人自身の動き(1):フランス—
- 第14回 「逃げる、隠れる」—ユダヤ人自身の動き(2):オランダ、ベルギー—

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

講義を受講する前、または受講しながら、概説書として芝『ホロコースト』またはベーレンbaum『ホロコースト全史』のいずれかを受講者が読んでおくことを希望します。

授業では、あまり日本ではなじみのない歴史的な事件を扱う場合があります。そのため、『世界各国史12(新版) フランス』(山川出版社 2001年)、『世界各国史14(新版) スイス・ベネルクス史』(山川出版社 1998年)の20世紀前半の部分を一読してから、講義を聴講すれば理解がより進みます。

・授業の進行に合わせて、フランスに関しては、渡辺和行『ナチ占領下のフランス』や同『ホロコーストのフランス』、オランダに関しては、水島治郎『隠れ家と広場』、フェルプフェン『アンネ・フランクは一人じゃなかった』、谷口長世『アンネ・フランクに会いに行く』を読み進めてください。

・第2次世界大戦期のユダヤ人迫害と殺害は国境を越える事件です。丸山直起『ホロコーストとアメリカ』を授業に合わせて読みながら、国境を越える認識、人間のつながりや活動を学んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 授業で扱った内容に関する理解を問う、論述形式の筆記試験をおこないます。(論述形式で1200字程度)。
レポート	0%
平常点	30% 授業後に史料読解に関する課題を出題します(2回程度)。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

学期末の筆記試験においては、以下の点にご注意ください。

- ・試験中、参考書、書籍、ノート、メモなどの参照は一切できません。
- ・試験問題と講義内容から著しく逸脱した答えは成績評価の対象になりません。
- ・解答は文章化してください。箇条書きの答えは採点の対象外とします。
- ・授業時に配布した資料で、内容が不足する場合には、参考文献などを参照して補ってください。
- ・自主的な試験勉強の成果が答案上に認められる場合により高い得点を与えます。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

はい
✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

指定しません。授業においては、プロジェクターで授業資料を投影しながら、授業を進めます。授業中の投影した資料は印刷し、受講者に配布します。

文献目録

【概説書、辞典など】

芝健介『ホロコースト—ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』(中公新書 2008年)
ラウル・ヒルバーク(望田・原田・井上共訳)『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』(柏書房 1997年)
マイケル・ペーレンバウム(芝健介監訳)『ホロコースト全史』(創元社 1996年)
ヴォルフガング・ベンツ(中村浩平他訳)『ホロコーストを学びたい人のために』(柏書房 2004年)
マイケル・マラス『ホロコースト』(時事通信社 1996年)
ウォルター・ラカー(望田幸男他訳)『ホロコースト大事典』(柏書房 2003年)
David S. Wyman(ed.), The World reacts to the Holocaust, John Hopkins UP 1996.

【研究書】

岡典子『沈黙の勇者たち—ユダヤ人を救ったドイツ市民の戦い』(新潮選書 2023年)
谷口長世『アンネ・フランクに会いに行く』(岩波ジュニア新書 2018年)
丸山直起『ホロコーストとアメリカ』(みすず書房 2018年)
水島治郎『隠れ家と広場—移民都市アムステルダムユダヤ人』(みすず書房 2023年)
渡辺和行『ナチ占領下のフランス—沈黙・抵抗・協力』(講談社選書メチエ 1994年)
渡辺和行『ホロコーストのフランス—歴史と記憶—』(人文書院 1998年)
シルト・ウォルターズ(朝比奈一郎訳)『三十か月—ユダヤ人家族を守りぬいた恐怖と幸福の日々』(富山房インターナショナル 2005年)
リアン・フェルブーフエン(水島治郎他訳)『アンネ・フランクはひとりじゃなかった』(みすず書房 2022年)
Dan Michman, Belgium and the Holocaust, Yad Vashem Pubns. 1998
Bob Moore, Survivors. Jewish Self-Help and Rescue in Nazi-Occupied Western Europe, Oxford UP 2010.
Bob Moore, Victims & Survivors. The Nazi Persecution of the Jews in the Netherlands 1940–1945, Arnord 1997.

オフィシアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名： 西洋テーマ史(2)／西洋各国史(2)A

担当教員： 鈴木 直志

履修年度： 2025 学期： 前期

開講曜日時限： 水2

配当年次： 1～4年次配当

科目ナンバー： LE-WH1-H312

登録者： admin

登録日時： 2024-11-06 07:34:07 更新者： AA1439

更新日時： 2024-12-15 15:16:19

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

授業のテーマは「広義の軍事史から見たヨーロッパの歴史」。

広義の軍事史とは、軍隊を一つの社会集団として位置づけ、その上で軍隊と国家や社会との相互関係を問う研究である。この授業では、この広義の軍事史の観点に基づいて、中世から現代までのヨーロッパ史の概略を講義する。

科目目的

西洋史に関する基礎的知識を修得する。
軍隊と社会の相互関係について歴史的な視座から考える。

到達目標

ある特定のテーマ(軍隊・戦争)から西洋史の大まかな流れを把握することができる。

授業計画と内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 封建制と騎士
- 第3回 中世世界の変容
- 第4回 中世の戦争
- 第5回 火器の発達と近世軍事革命
- 第6回 近世の軍隊と社会
- 第7回 近世の戦争
- 第8回 近代国民軍の成立
- 第9回 軍事のテクノロジー化
- 第10回 国民皆兵の時代
- 第11回 第一次世界大戦
- 第12回 第二次世界大戦
- 第13回 冷戦期以降の軍隊・戦争と社会
- 第14回 総括とまとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	60%	授業内容が正しく理解されているかどうか
レポート	25%	授業中に指定された提出物
平常点	15%	コメントペーパー提出
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

コメントペーパーの提出が3分の2に足りなかった場合はE評価とする。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responを使って、授業の終わりにコメントペーパーを提出してもらおう。そのいくつかに対して、次の授業の始めにこちらから返答やコメントをする。

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
教科書は指定しない。参考文献は開講時に指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

提出されたコメントペーパーのいくつかに対しては、次の授業の始めにこちらから返答やコメントをする。それゆえ、講義形式ではあるものの、学生との対話を盛り込んだ、ある程度の双方向性のある授業になるはずである。

参考URL

備考

科目名：西洋テーマ史(3)／西洋各国史(4)B

担当教員：広岡 直子

履修年度：2025 学期：後期

開講曜日時限：火5

配当年次：1～4年次配当

科目ナンバー：LE-WH1-H313

登録者：admin

登録日時：2024-11-06 07:34:07 更新者：AB3280

更新日時：2025-01-10 23:21:19

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ロシアにおける近代化を医療という観点から考察する。民衆の日常における治療と看護に近代医療がどのように受容されていったのかを深く理解するために、ロシアの風土とロシア正教の問題もとりあげる。

ロシアは、かつて日本と同じ後発資本主義国と位置付けられていたが、欧州とアジアの両面をもつユーラシア大陸を占有しており、文化・制度は日本とは大きく異なる側面を持っている。本講義では、ロシア革命前までの身分制、欧州の科学の発展、医療制度とイデオロギー、国家・地方自治のありかた、など多岐にわたる内容を取り扱うが、いずれも、医療から近代化とロシア社会の歴史的諸問題を理解するための手がかりをえるところにポイントがある。

科目目的

ロシア近代化のプロセスを医療という問題をテーマにして深く掘り下げることで、新しい歴史的認識・方法論を獲得することを目的とする。

到達目標

1. ロシア社会のわかりにくさを医療からひもとく。
2. 授業で得られた視点を他地域にも応用して、新しい歴史的な視座を獲得する。

授業計画と内容

- 第1回 イントロダクション：ロシアの風土
- 第2回 ロシア文化の基層としてのロシア正教
- 第3回 民衆のご利益アイコン
- 第4回 近代以前の医療：十字行・誓願と聖なる言葉および呪文
- 第5回 「乞食愛」と慈善に対する考え
- 第6回 民衆の医療空間：ズナーハリとカルドゥーンと「医師」
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 医療における国家の役割：ツァーリの独占を経て軍医療・疫病の必要からの社会へのまなざし ～ その1
- 第9回 医療における国家の役割：ツァーリの独占を経て軍医療・疫病の必要からの社会へのまなざし ～ その2
- 第10回 ロシアにおける医師の存在
- 第11回 フェリシェールとはだれか：問題の所在
- 第12回 飢餓と感染症および乳児死亡率の高さ
- 第13回 帝政期ロシアの医療行政
- 第14回 まとめ

なお、都合によりシラバスの順番や内容に若干の変更がある場合がある。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

テキストはないが、事前に印刷を指示したレジュメを印刷(強く推奨)あるいは見られるようにしておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	50% 主要なテーマや事例が理解できているか、学んだことを現在や未来への考察に活かす視点があるかを評価する。(レポートの形式で授業の最終日に提出)
平常点	50% リアクションペーパーの提出等によって、能動的な受講を評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
 ディスカッション、ディベート
 グループワーク
 プレゼンテーション
 実習、フィールドワーク
 その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クlickカー
 タブレット端末

- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

自主学習支援としてe-learningシステムを使って当該科目の知識を深めることができる。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

パワーポイントで授業を進める。資料は授業前に掲示するので各自印刷をお願いする。
 講義に関わる参考文献等は、適宜授業で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 西洋テーマ史(4)／西洋古代史B

担当教員: 唐橋 文

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 月5

配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H314

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:34:07 更新者: AA0720

更新日時: 2024-12-03 12:29:54

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

古代西アジアの文字・歴史文書・文学の三つをテーマとして、それぞれを、3回・5回・4回の授業で見えていく。まず文字(楔形文字とセム語のアルファベット)の成立と展開について概観した後、シュメール語やアッカド語などで書かれた代表的な歴史文書と文学作品を日本語ないし英語訳で読み、それらがどのような社会的・文化的・歴史的背景を持つのかを考察する。

科目目的

(1) 古代西アジアの文字に関する知見を獲得する。(2) 実際の文献資料の読解を通して古代西アジアの社会・文化・歴史について学習する。

到達目標

古代西アジアの文字がどのように成立し使用されたのか、また実際の文献資料がいかなる社会的・文化的・歴史的背景の下に書かれたのかを理解する。

授業計画と内容

01. ガイダンス: 授業の進め方と古代西アジア史紹介
02. 楔形文字
03. 書記の教育
04. アルファベットの成立
05. シュメール王名表
06. シュメール王碑文
07. 古代西アジアの法(ウルナンマ法典とハンムラビ法典を中心に)
08. アマルナ時代の政治・宗教・芸術
09. 旧約聖書と西アジア
10. 古代西アジアの神々と英雄たち
11. ギルガメシュとアトラ・ハシス(人類の創造と大洪水)
12. イナンナ・イシュタル女神神話群
13. エジプトの神話
14. まとめ

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 70点満点
レポート	0%
平常点	30% クラスに対する積極的な参加・貢献度

その他 0%

成績評価の方法・基準(備考)

出席率70%以上を前提に、期末試験と平常点の合計によって成績評価を行う。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【参考文献】大貫良夫、前川和也、渡辺和子、屋形禎亮『人類の起原と古代オリエント』(世界の歴史1)中公文庫;小川秀雄、山本由美子『オリエント世界の発展』(世界の歴史4)中公文庫;山我哲雄『聖書時代史:旧約篇』(岩波現代文庫・学術98)岩波書店

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: 西洋テーマ史(5)／西洋各国史(1)B

担当教員: 杉崎 泰一郎

履修年度: 2025 学期: 後期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 1～4年次配当

科目ナンバー: LE-WH1-H315

登録者: admin

登録日時: 2024-11-06 07:34:08

更新者: AA0015

更新日時: 2025-01-10 08:15:21

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

修道院と西欧中世社会の成立

ローマ帝国のキリスト教公認期からカロリング朝フランク王国までの歴史を、修道院に関連する史料を通してまなぶ

科目目的

西ヨーロッパの歴史について、教会(特に修道院)を中心に学ぶ

到達目標

キリスト教の公認前後に修道院が成立してから、民族移動期のガリアへの普及を経て、カロリング期の教会国家政策までを扱う

授業計画と内容

- 1 ガイダンス
- 2 初代教会
- 3 修道院の成立 アントニウス
- 4 修道院の西欧への伝播
- 5 メロヴィング期の修道院
- 6 ベネディクトの戒律 1 成立とテキスト
- 7 ベネディクトの戒律 2 祈り
- 8 ベネディクトの戒律 3 労働
- 9 ベネディクトの戒律 4 読書と書物
- 10 カロリング期の修道院
- 11 カール大帝の修道院政策
- 12 カロリング・ルネサンス
- 13 ルートヴィヒ敬虔帝の教令
- 14 まとめと総括

※なお、授業の進捗状況や大学の方針変更などに伴い、内容を変更する場合があります。

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業後は、プリントや授業の内容を記したノートなどをよく読み返しておくこと。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。

・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	80% 授業内容を十分に理解していること
レポート	0%
平常点	20% 出席とリアクションペーパーの提出
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

毎回講義後に提出するコメントを出席とし、平常点とする。出席が3分の2に満たない場合はE判定とする。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う

✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

特定のフィードバックを行う予定はないが、授業時間内に理解が進むよう努める

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

受講者に随時質疑応答を行う

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
資料などを毎回配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

